

# 子育てワンポイント 励ましのことば14

**「明日もまたね、きつとだよ、この続きをね」**

**こういう信頼し合う気持ちを、確認し交換し合うことで、子ども達は、人を信じることと、自分を信じることを身につけるのです。**



天声人語欄に作家・作詞家の阿久悠氏の言葉が引用されていました。「今の社会で何が欠けているか。

それは「成熟」という言葉ではないか。子どもは12・13歳までに子どもの要素を使い切らないと、大人になってとんでもないことをする恐れがある」と。思わず見事な洞察だと思いました。

子どもは子どもの要素を使い切ってからでしか、大人になっていけないのです。子どもの心をもった子どもは健康な存在ですが、疑似的な大人の心を持ってしまった子どもは不健康です。それでは、子どもは、どのように子ども時代を生きていけばいいのでしょうか。

一言で言えば、子どもは子どもと一緒に子ども時代を過ごすということです。仲間と互いに共感し合いながら、大きな興味や関心のあることに、燃えるような情熱に駆られるようにして、毎日多くの時間を過ごすということ。仲間を受け入れ、仲間を受け入れられながら、成長・発達・成熟にともなって、その時その時に持ち合わせる心身の機能を精いっぱい活用できるような時間を、仲間と共有し合うこと。つまり、お友達とたくさん遊ぶこと。

友達と十分に遊ぶ少年期を過ごした大人達は、日が暮れて帰宅しなければならなくなった時の、あの心残りや残念な気持ちを思い出せると思います。

「明日もまたね、きつとだよ、この続きをね」 こういう信頼し合う気持ちを、あらためて確認し交換し合うことで、子ども達は、人を信じることと、自分を信じることを身につけることが多いのです。

私の尊敬する佐々木先生の本の序文『「明日もまたね」と言える子に』からの引用です。枠内に収めるために編集しております。どうしたらこのような環境を親が用意できるか、続きをお楽しみに！